

福島県立図書館
東日本大震災福島県復興ライブラリー

ブックガイド

No. 2

2013.6.11

■過去の災害

『震災復興 後藤新平の120日 都市は市民がつくるもの』

後藤新平研究会/編著 藤原書院 2011.7 210.69/コト117

関東大震災の翌日、内務大臣となった後藤新平は、帝都復興を目指し動き出しました。わずか120日の間に、現在の東京や横浜の原型を作り上げた後藤は、壊滅の首都で何を考え、どのような行動をとったのでしょうか。当時の史料を整理し、「復興」への軌跡を読み解いたドキュメントです。時代にふさわしい「復興」を目指した後藤新平の心は、新しい時代を考える糧として生きています。

■文学 体験記

『21人の輪 震災を生きる子どもたちの日々』

杉浦大悟/著 NHK出版 2012.12 LS369.31/S27/1

相馬市立磯部小学校の6年生が、東日本大震災による地震や津波、原発事故という過酷な状況の中で、先生や友達との絆を心の支えに、自分たちの未来を見据えながら生きていく姿を、子どもたちの心の変化とともに、卒業までの1年間を綴ったノンフィクションです。この内容は、NHKで10回にわたり特集番組として放映されました。

■メディア 報道 写真集

『ラジオ福島の300日』

片瀬京子とラジオ福島/著 毎日新聞社 2012.3 LS369.31/K16/1

私たちは、東日本大震災を経験して、ラジオは重要な情報源になることを知りました。この本はタイトルのとおり、2011年3月11日から約1年間、それまで誰も経験したことのない非常事態のなかで、総勢55名の社員たちが何を思い、どう伝えたのかという「ラジオ福島」の記録です。さまざまな苦悩や葛藤を抱えながらも続けた、350時間14分にわたる連続生放送の裏側が描き出されています。

■放射線・除染

『放射線のものさし:続 放射線のひみつ』

中川 恵一／著 朝日出版社 2012.10 539.6/ナケ 116/2

著者は東大病院放射線科の医師です。事故後、東大病院放射線治療部のスタッフとともに「チーム中川」を編成し、情報や対処法について発信してきました。また、事故後飯舘村に入り、実情を踏まえた上で、どう対応すればいいのかを考えてきました。本書では原発事故後の1年半を振り返り、反省点を踏まえた上で、これから私たちは「放射線のものさし」をどう捉え、どう考えていけばいいのかということを提案しています。

■復興・防災

『災害時炊き出しマニュアル:誰もができる炊き出しを目指して』

キャンパー,日本調理科学会／共著 東京法規出版 2012.8 369.3/キヤ 128/

災害支援の炊き出しボランティアを長年実施してきたNPO法人キャンパーと、日本調理科学会とが、活動の実績を基に作り上げた一冊です。状況に応じた具体的なメニュー例を紹介するとともに、被災者の心情に寄り添いながら無理なく炊き出し活動を行うためのノウハウもまとめています。その細やかさ、的確さからは、単に被災地へ行き食事を提供する、だけではない、精緻で温かな気配りを感じさせられます。災害時だけではなく、防災訓練やアウトドアイベント等での大人数調理にも活用できます。

■子ども向け

『放射線がよくわかる本(よくわかる原子力とエネルギー 1)』

山口竜也・平尾小径／編集 野口邦和／監修 ポプラ社 2012.3 539/ヨ/1

子ども向けの放射能・放射線に関する図書は、子どもたちに理解してもらうために、言葉や図を工夫し、難しい事柄でもできるだけわかりやすくなるよう作られています。その中でも本書は、放射線・放射能の性質やその影響についての記述だけでなく、暮らしの中で役立っている部分と危険性が高いものであるという事実をバランスよく取りあげています。また単位については、ベクレルやグレイ、シーベルトの関係や、ミリやマイクロという大きさに関わるものも併せて解説しています。大人にとっても正しく恐れるための基本的な知識が得られる本です。